

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		福祉のまちづくり推進				所管	福祉部 福祉課	
事務事業の概要	行政計画	あり	事業NO.	170	計画事業名	福祉のまちづくり推進		
	長期総合計画体系	[基本目標] Ⅲ-1. 健康づくりと、自立生活を支える基盤づくり					事業の開始・終了年度	
		[小 柱] (4)地域での生活を支える仕組みづくり					[事業開始] 平成 1 4 年度	
		[施策] ④ 地域での健康づくりの推進[50]					[終了予定] - 年度	
	根拠法令等	その他		[法令等名]	東京都福祉のまちづくり条例			
	事業対象	一般区民・区内小・中学生						
	事業目的	福祉のまちづくりの普及・啓発につとめ、「心のバリアフリー」を推進する。						
	事業内容	(1)区内小・中学校において、児童・生徒を対象とした高齢者疑似体験の実施。 (2)「こころのバリアフリー」リーフレットの作成。 (3)磁気ループの貸し出し						
委託の有無	一部委託		委託内容	疑似体験はNPO法人への委託により実施。 車椅子体験は台東区社会福祉協議会とともに実施。				
補助金の有無	都							
事務事業の実績	種 別	指標の名称 (単位)		目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度	
	活動指標	高齢者疑似体験実施回数 回		11	10	10	9	
		高齢者疑似体験参加者数 人		600	647	656	585	
	成果指標							
	決算額 (単位：千円)				1,294	1,199	1,396	
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト (人件費など)			1,800	1,666	1,704	
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)			1,294	1,199	1,396	
		その他のコスト (扶助費・補助費など)			0	0	0	
		総経費			3,094	2,865	3,100	
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)			0	0	0	
		その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)			647	599	691	
一般財源 (区負担額)			2,447	2,266	2,409			
前年度から改善した事項		実施希望校について事前調査を行い、新規希望校を優先して実施し、実施回数の多い学校については翌年度実施することとした。						
評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	4	福祉のまちづくりにおいて、ハード面とともに、ソフト面の「こころのバリアフリー」は欠かせない要素である。障害者や高齢者に対する理解と思いやりの啓発のため、継続実施していくことが必要である。					
	効率性	3	磁気ループの各種イベントへの貸出実績など、支出に見合った効果も得られている。					
	手段の適切性	3	疑似体験は、児童の貴重な体験の機会となっており、福祉のまちづくり普及・啓発にとって適切な事業である。					
	目的達成度	4	参加希望校は年々増加しており、体験を通して「心のバリアフリー」の普及・啓発は進んでいる。					
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了	
疑似体験、リーフレットによる啓発、磁気ループ貸出など、「こころのバリアフリー」醸成のための手段は充実している。平成25年度に作成した心のバリアフリーリーフレットは、疑似体験の様子やサイン表記を増やすなど内容を充実させた。今後は、児童・生徒を中心とした普及・啓発事業を、社会人をも含めた対象とする内容に改善するべく検討が必要である。						改善		